

小学校第 6 学年

国語 B

注 意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから 16 ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、
全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB または B の黒鉛筆（シャープペンシル
も可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、
消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40 分間です。解答が早く終わったら、
よく見直しましょう。
- 6 机の上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見
て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人
番号をまちがいのないように書きましょう。



問題は、次のページから始まります。

六年生の川本さん、中川さん、そして青木さんの三人が、春の遠足に出かける五年生の代表A・Bの二人に、遠足で行うレクリエーションについて助言をしています。次は、そのときの【助言の様子】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【助言の様子】

※①・②・③の発言の内容は、あとの問いと関係があります。
※()の中の言葉は、そのときの様子を説明したものです。

川本

五年生A

こんにちは。ここにすわっていいよ。(やさしい態度)
はい。(きんちようした様子)わたしたち二人は、学年のレクリエーション係をしています。わたしたちは春の遠足で行うレクリエーションの内容についてなやんでいます。場所は、去年と同じ公園で、一時間の活動時間が決められています。わたしたち五年生としては、ボールを使ったレクリエーション活動を考えています。公園でその活動を行うときに、どのようなことに注意したらよいか、助言をもらいにきました。よろしくお願います。

川本

中川

今年も行くんだね。それは、楽しみだね。(笑顔)
わたしたち三人もレクリエーション係だったのよ。去年もみんなが納得するように提案をするのは大変だったわ。わたしたちの体験が役に立てばうれしいわ。何でもかまわないので聞いてね。(ほほえむ)

五年生A・B

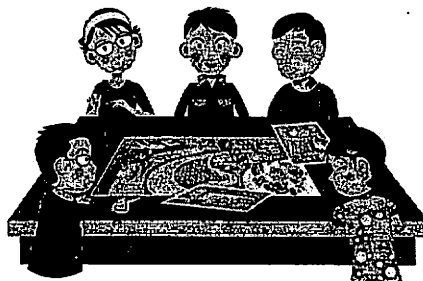
青木

① いろいろなレクリエーションを楽しめると思っけれど、前もって何か調べていることはあるかな。(笑顔)

五年生B

はい。先生にお願いをして、去年の活動の様子が分かる写真と、公園の案内図をいただきました。これです。(写真と案内図を見せる)写真を見ると、グループ別にボールを使った活動やバドミントンなどをしてることが分かります。また、案内図を見て、公園は学校の運動場よりもせまいのではないかと思いました。実際の広さは、どのくらいでしょうか。

中川さん 川本さん 青木さん



五年生B

五年生A

川本

学校の運動場の三分の二くらいの広さしかないよ。

中川

② 前もって自分たちで資料を探し、去年のことをもとにしなから、できそうな活動について考えようとしているのね。係として、とても大切なことね。(感心した様子)

五年生A

そう言ってもらえると安心します。(A・B共にほっとした様子) 五年生の一部にサッカーを希望する人がいるのですが、この公園でサッカーはできるでしょうか。

青木

いや、この公園でサッカーの試合は無理だな。川本さんが言ったように、この公園はサッカーの試合ができるような広さではないよ。でも、少ない人数でパス回しくらいならできると思うな。

川本

③ 実はね、案内図にはかいていなかったと思うけど、この公園にはいろいろな道具があつて、無料で貸し出しをしているんだよ。(明るく)

五年生B

へえ、そんなものがあるのですか。この案内図だけでは、分かりませんでした。いろいろな道具にはどのようなものがあるのですか。

中川

サッカーボール、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、長なわなどがあつたわよ。それにバスケットコートもあるのよ。

五年生A

グループに分かれて、その道具を使って活動すればいいね。(五年生Bの顔を見て)

五年生B

そうだね。(五年生Aと顔を見合わせる) 六年生のみなさん、活動をするグループは、何人ぐらいがいいと思いますか。

青木

そのことについて、二人はどう思うかな。少し二人で相談してごらん。

五年生B

(五年生Aと相談したあと) みんなにアンケートをとって、希望するレクリエーションごとにグループをつくるのがいいと考えました。どうでしょうか。

川本

グループで活動することはいいかもしれないね。ただ、それにこだわることなく、全員で一つの活動することも考えられるね。何より大切なことは、レクリエーションを何のためにするか、確かめておくことだね。

五年生A

はい、分かりました。もう一度考えてみます。六年生の助言をもとに、よりよい活動にしていこうと思います。今日はありがとうございました。

青木

みんながよく話し合つて、よりよい活動ができるといいね。

一【助言の様子】の中の——部から、五年生は二人とも安心してやっていることが分かります。それは、六年生が五年生に対してどのように対応したからだと考えられますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 六年生が、五年生の相談に対して、分からないことをいろいろと質問をしていたから。
- 2 六年生が、五年生の立場を理解し、体験を生かして期待にこたえようとしていたから。
- 3 六年生が、五年生の相談内容を予想し、前もって自分たちの考えを用意していたから。
- 4 六年生が、五年生を敬おうとする気持ちを表すために、敬語^{けいご}を使って話していたから。

二【助言の様子】の中の①・②・③の三人の発言は、それぞれどのようなねらいがあると考えられますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 相手の考えのよさやくふうしたところを見つけ、そのことを認めようとしている。
- 2 自分の成功や失敗から学んだことを話し、相手が問題を解決できるようにしている。
- 3 相手がもっていない情報を示し、選ぶことができることがらを広げようとしている。
- 4 相手がことごとについて、どれくらいの情報を知っているかを確かめようとしている。

三 【助言の様子】の

の中の青木さんと川本さんは、五年生に対してどのような助言

をしていますか。次の【青木さんの助言についての説明】を参考にして、【川本さんの助言に

ついての説明】の A の中に入る内容を、書き出しの言葉に続けて、四十字以上、

六十字以内で書きましょう。

(書き出しの言葉は、字数にふくみます。)

【青木さんの助言についての説明】

青木さんは、五年生の質問に対してすぐに答えを述べるのではなく、五年生にまずは自分自身で考えるように助言をしている。

【川本さんの助言についての説明】

川本さんは、

A

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

川本さんは、◆	

60字 40字

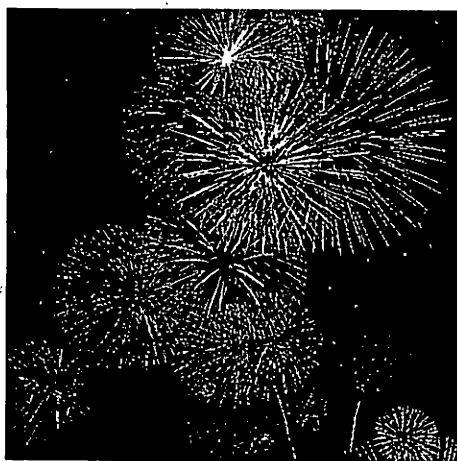
問題は、次のページに続きます。

【リーフレットの表紙】

打ち上げ花火の伝統

打ち上げ花火は、いつから人々の目を楽しませてきたのでしょうか。また、花火師たちはどのような種類の打ち上げ花火を作り出してきたのでしょうか。

そして、打ち上げ花火の伝統を守るために花火師たちはどのような苦勞をしているのでしょうか。



6年1組

・今村

・西村

・町田

・山下

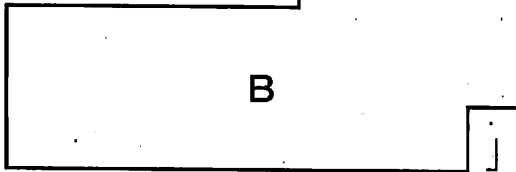
今村さんの学級では、グループごとに日本の伝統と文化について調べ、リーフレットにまとめています。今村さんたちのグループでは、「打ち上げ花火の伝統」について分^{ぶん}担^{たん}して調べ、次の【下書きの一部】を書きました。そして、グループで【編集会議】を開いたときに出された意見をもとに書き直しています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※リーフレットとは、一枚^{いちまい}の紙を折りたたんだものなどに、文章と絵や写真、図表、グラフなどを使って伝えたい内容を分かりやすく説明したものです。

3 花火師の小野さんの声

ア いろいろな苦勞をこえて

小野さんは、「



と話していました。花火の打ち上げのうらには、花火師さんの



いろいろな苦勞があることを初めて知りました。

イ つくり出す伝統

小野さんは、「現在、花火の色として、水色やピンク色などの中間色も使ったカラフルな花火を作っています。また、音楽に合わせて花火を打ち上げるな



どの新しいちょう戦もしています。」と話していました。

3 ページ

4 まとめ

打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

C

◆ あとがき

打ち上げ花火の歴史や種類、花火師さんたちの苦勞を知ることで、夜空にかがやく打ち上げ花火が、今以上に美しく見えるにちがいありません。打ち上げ花火のことを調べて、日本の伝統のわざと心にふれることができました。



4 ページ

【下書きの一部】 ※一人一人が分担して書いた内容を一枚に構成したもの

※ここから読み始めましょう。

1 打ち上げ花火の歴史

[1613 (慶長18) 年]

中国人が打ち上げた花火を、
徳川家康とくがわいえやすが見物した。

[1733 (享保18) 年]

東京の隅田川すみだがわで、花火が打ち
上げられた。

A
[1879 (明治12) 年ごろ]

海外から塩素酸カリウムなど
が輸入されるようになった。

[1910 (明治43) 年]

事故防止のため、花火の製造
と打ち上げに、めん許や許可を
必要とする法りつができた。

1 ページ

2 打ち上げ花火の種類

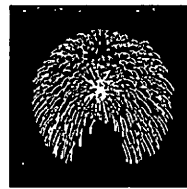
打ち上げ花火は、「昼花火」と
「夜花火」に分けられる。

「昼花火」は、行事などの開始
の合図として打ち上げられる、
「音物」が多い。

「夜花火」は、大きく「わり物」、
「ポカ物」に分けられる。

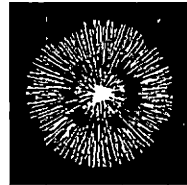
「わり物」は代表的な打ち上げ
花火で、破れつした時に星が球状
に飛び散るものである。

「わり物」の中には、「キク物」
や「ボタン物」などがある。



← [キク物]

星がきくの花のよ
うに、おを引いて広
がるもの。



← [ボタン物]

星がぼたんの花の
ように、おを引かな
いもの。

現在における打ち上げ花火の
特ちょうとして、「型物」の開発
が進んでいることが挙げられる。
「型物」とは、あるものの形になっ
て星が飛び散るもので、最近では、
土星や人の顔の形などになるよう
にくふうされている。

2 ページ

【編集会議での山下さんの意見】



「塩素酸カリウムなどの輸入」のことだけでは、見出しの「**1** 打ち上げ花火の歴史」との関係がよく分からないな。塩素酸カリウムなどが輸入されたことによって、どのような打ち上げ花火を作ることができるようになったのかを書き加えたほうがいいね。



【ずかんの一部】

開国後、花火師たちはさまざまな色や明るさの打ち上げ花火を作ることができるようになりました。これは、1879（明治12）年ごろ、海外から塩素酸カリウムなどが輸入されるようになったからです。

～（内容が続く）～



【書き直した部分】

[1879（明治12）年ごろ]

海外から塩素酸カリウムなどが輸入されるようになったことにより、

Empty rectangular box with a dashed line, intended for the rewritten text.

— 今村さんたちは、「**1** 打ち上げ花火の歴史」の **A** の内容について、「編集会議での山下さんの意見」を受けて書き直しました。「書き直した部分」の **B** の中に入るふさわしい内容を、「ずかんの一部」の中の言葉を使い、書き出しの言葉に続けて書きましよう。

【編集会議での西村さんの意見】



見出しの「ア いろいろな苦勞をこえて」に合わせて、【ずかんの一部】の中から、小野さんの苦勞が具体的に書かれている文を引用したほうがいいと思うわ。



【ずかんの一部】

～花火師の小野さんの声～

みなさんは、花火師が花火を打ち上げるまでにどのような苦勞があるか知っていますか。わたしは、花火師のわざを身に付けるために、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。

～（内容が続く）～

二 今村さんたちは、「**3** 花火師の小野さんの声」の「ア いろいろな苦勞をこえて」の **B** について、【編集会議での西村さんの意見】を受け、そこに書く内容を考えました。そこで、【ずかんの一部】の内容を引用して書くことにしました。引用する二つの文を探し、それぞれの文のはじめの五文字を書きましよう。なお、「・」も字数にふくみます。

【編集会議での町田さんと山下さんの意見】

町田さん



「**4**まとめ」には、題名「打ち上げ花火の伝統」に合う内容を書いたほうがいいと思うわ。書き出しの文（「打ち上げ花火は、…伝統といえます。」）は、「歴史」に注目し、「**1**打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめているわね。

それに続く内容は、「現在」の打ち上げ花火に注目し、「**2**打ち上げ花火の種類」と「**3**花火師の小野さんの声」の「**イ**つくり出す伝統」の中に書かれている、現在における打ち上げ花火の形や色、打ち上げるときのくふうを取り上げて書いたほうがいいね。そして、最後に考えたことをまとめて書いたらどうかな。

山下さん



打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

◆									
80字									
								100字	

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。

解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

三 今村さんたちは、「**4**まとめ」の C について、「編集会議での町田さんと山下さんの意見」を受け、書き出しの文に続く内容を考えました。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ 【編集会議での町田さんと山下さんの意見】を受け、【下書きの一部】の「**2**打ち上げ花火の種類」と「**3**花火師の小野さんの声」の「**イ** つくり出す伝統」の両方から内容をとり上げて書くこと。

○ 取り上げた内容について、あなたが考えたことを具体的に書くこと。

○ 書き出しの文に続けて、八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの文は、字数にはふくみません。

前田さんの学級では、新美南吉にいみなきちが書いた「ごんぎつね」を読んだあと、その物語、あるいはそれに関連する本や文章を取り上げて下さいせん文を書くことにしました。次は、「花田さんが書いた下さいせん文」と「本間さんが書いた下さいせん文」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花田さんが書いた下さいせん文】

みなさんは、物語をくり返し読みだ経験はありますか。そのような読み方をしたことがない人に、新美南吉が書いた「ごんぎつね」をおすすめします。

この物語の最後の部分は、次のように書かれています。「兵十ひやうじゅうは、火なわ銃じゆうをぱたりと、とり落としました。青いけむりが、まだ筒口つづぐちからはそく出ていました。」わたしは、この部分が気になり、物語の全体をくり返し読み、登場人物の心の変化をたどってみたいとなりました。

「ごんぎつね」には、ごんと兵十が登場します。ごんが、兵十のうなぎを取ってしまうといういたずらが事件の起こりです。ごんは、そのことを深く反省し、おわびにくりや松たけを兵十のうちに持っていくようになります。しかし兵十は、ごんがしたことだとは気づかず、最後に火なわ銃でごんをうってしまいます。兵十は、そこで初めてごんの行動に気づくのです。ごんと兵十の心のすれちがいにせつない気持ちになります。

わたしは、この物語がどのように続くのか想像しながら、最後の部分を何度も読み返しました。そのことで、青いけむりにこめられた意味を少し理解できたような気がします。物語の最後の部分に深い味わいがあるこの物語を、みなさんにもぜひ読んでほしいと思います。

【本間さんが書いたすいせん文】

わたしは、「ごんぎつね」を読んで、作者の新美南吉に興味をもちました。そこで、図書館に出かけ、新美南吉の作品を集めた本をさがして読みました。その中で、主人公のものの見方や考え方に注目して読んだところ、「手ぶくろを買いに」と「おじいさんのランプ」が特に心に残りました。

「手ぶくろを買いに」は、「ごんぎつね」と同じようにきつねが主人公の物語です。母さんぎつねは、子ぎつねに人間はこわいものだとかえます。しかし子ぎつねは、町へ手ぶくろを買いに行ったとき、人間のやさしさや温かさにふれます。美しいものや人間のやさしさをすなおに感じる子ぎつねのすがたに心が温まります。

もう一つは、「おじいさんのランプ」です。この作品の主人公のおじいさんは、わかいころにランプ売りとして成功しますが、時代の流れの中で電気が使われるようになり、ランプ売りをやめる決意をします。そのいさぎよすがたがむねをうちます。

わたしは、同じ作者の作品を読むことで、お気に入りの作品に出会うことができました。みなさんは、物語の作者に注目して本や文章を読んだことがありますか。そのような経験がない人には、まずは、読んだ本の中から好きな物語を選び、その物語の作者の作品を集めた本をさがして読むことをすすめます。きっと作者自身のことについて知識を増やしたり、作品にこめられた意味を深く考えたりすることができるはずです。

一 前田さんは、二人のすいせん文を比べて読み、分かったことをノートにまとめました。

【ノート】の **ア** ・ **イ** ・ **ウ** の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましよう。

【ノート】

<p>【本間さんが書いたすいせん文】</p>	<p>【花田さんが書いたすいせん文】</p>	
<p>○ 作者の作品を集めた本</p> <p>「手ぶくろを買いに」 「おじいさんのランプ」</p>	<p>○ 「ごんぎつね」</p>	<p>どのような本や文章をすすめているか</p>
<p>○</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 100px;">ア</div>	<p>○ 物語をくり返し読んだ経験がない人</p>	<p>どのような人にすすめているか</p>
<p>○</p> <p>〈読むことを通した効果の面から〉</p> <p>○ 作者自身のことについて知識を増やしたり、作品にこめられた意味を深く考えたりすることができるから。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 100px;">ウ</div>	<p>○</p> <p>〈作品の持ちようの面から〉</p> <p>○ 物語の最後の部分に深い味わいがあるから。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 100px;">イ</div>	<p>すすめる理由</p>

二 前田さんは、二人のすいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあることに気づきました。二人は、どのような読み方をしていますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 同じ題材で、複数の作者が書いた作品を取り上げ、作者の考えを比べながら読んでいる。
- 2 一つの作品を取り上げ、自分の考えと作者の考えのちがいを明らかにしながら読んでいる。
- 3 同じ作者の複数の作品を取り上げ、登場する主人公に注目しながら読んでいる。
- 4 同じ主人公が登場する作品を取り上げ、そのおもしろさをまとめながら読んでいる。
- 5 一つの作品を取り上げ、注目した物語の最後の部分や全体を何度もくり返し読んでいる。

これで、国語Bの問題は終わりです。

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査

平成 25 年 4 月 文部科学省